令和３年度　黒部国際化教育推進事業

英語の指導に関する
まとめ

令和４年３月

黒部市教育委員会
黒部市教育センター

目　次

Ⅰ　黒部国際化教育に関するアンケート結果・・・・・・・・・・・・・ 1

　1　児童生徒アンケート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

　2　学校質問紙・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

Ⅱ　英語検定３級以上の取得率、受検率等・・・・・・・・・・・・・・ 19

Ⅲ　Enjoy talking の結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

Ⅳ　Speaking test の結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

Ⅰ　黒部国際化教育に関するアンケート結果

1　児童生徒アンケート

市内の小学校１年生から中学校３年生までを対象に、アンケート調査（自分のことを振り返って記入する、自己評価）を行った。

【実施時期】　令和３年 12 月 15 日～令和４年１月 14 日

【実施校数】　小学校９校、中学校２校　※市内全小・中学校

【回答人数】　小学校・・・　１年生　347 人、２年生　307 人、３年生　321 人
　　４年生　308 人、５年生　338 人、６年生　357 人
　　中学校・・・　１年生　330 人、２年生　338 人、３年生　334 人

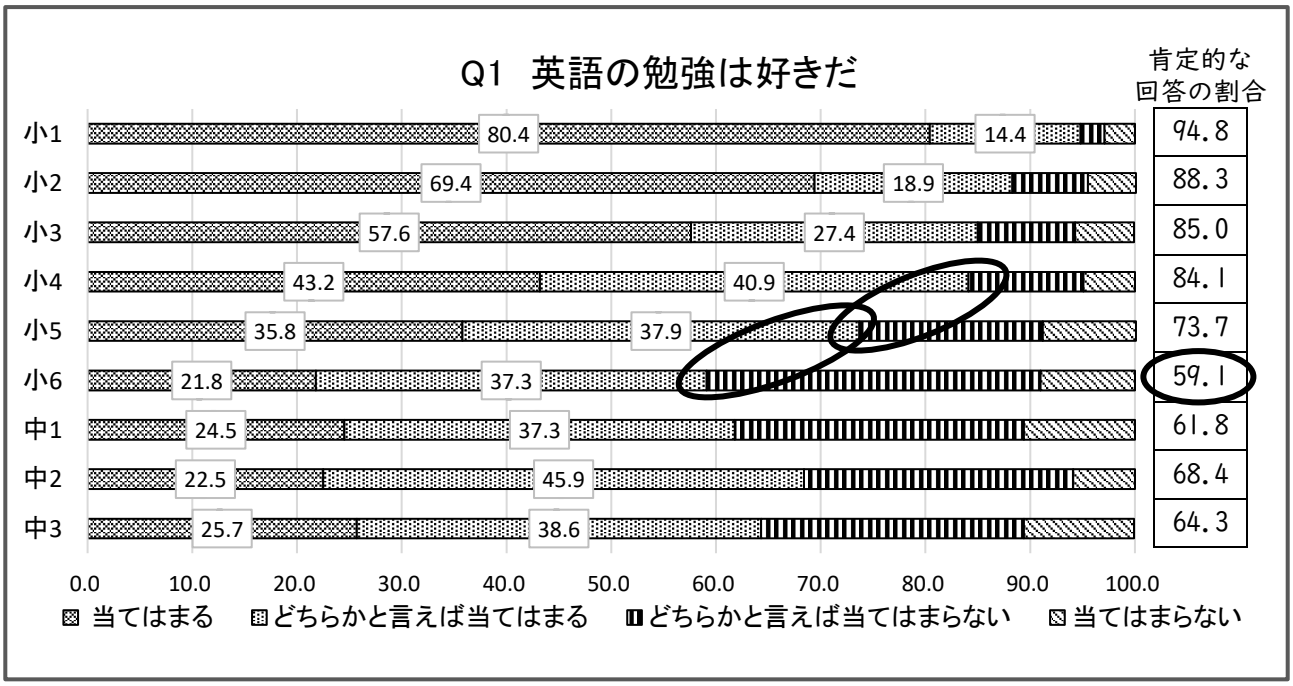
※（参考）令和２年度の回答人数
小学校・・・　１年生　306 人、２年生　319 人、３年生　312 人
　　４年生　353 人、５年生　365 人、６年生　361 人
中学校・・・　１年生　339 人、２年生　342 人、３年生　317 人

【質問項目】（１）興味・関心「英語の勉強は好きだ」
（２）理解度「英語の勉強はよくわかる」
（３）聞くこと「英語を聞いて、その概要や要点を捉えている」
（４）読むこと「英語を読んで、その概要や要点を捉えている」
（５）話すこと（やり取り）「英語を聞いて（即興で）英語で話している」
（６）話すこと（やり取り）
「友達同士で英語で問答したり、意見を述べ合ったりしている」
（７）話すこと（発表）「伝えたいことを英語で話している」
（８）書くこと「自分の考えや気持ち等を英語で書いている」
（９）英語の学習で身に付けたい力
「あなたは英語を使ってどんなことをできる力を付けたいですか（複数回答可）。」

※児童生徒の発達段階に応じた質問数及び質問内容とした。P17 参照。

アンケート調査の結果は次のグラフのとおりである。

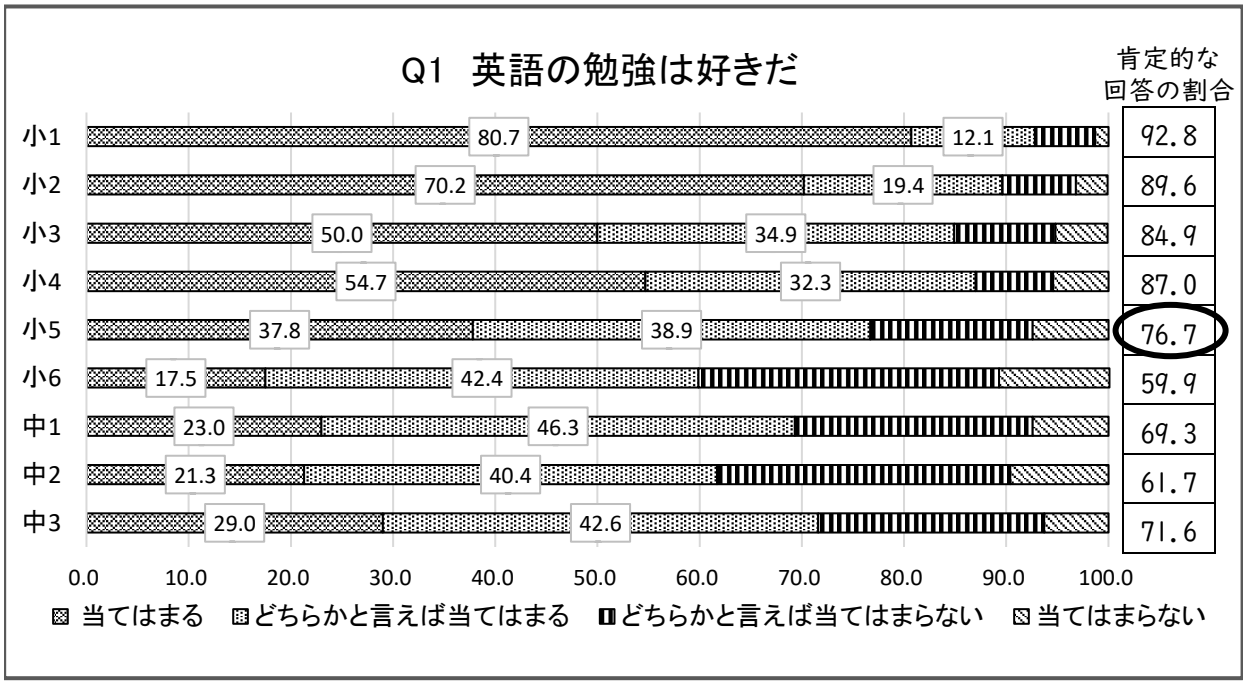
（１）興味・関心「英語の勉強は好きだ」



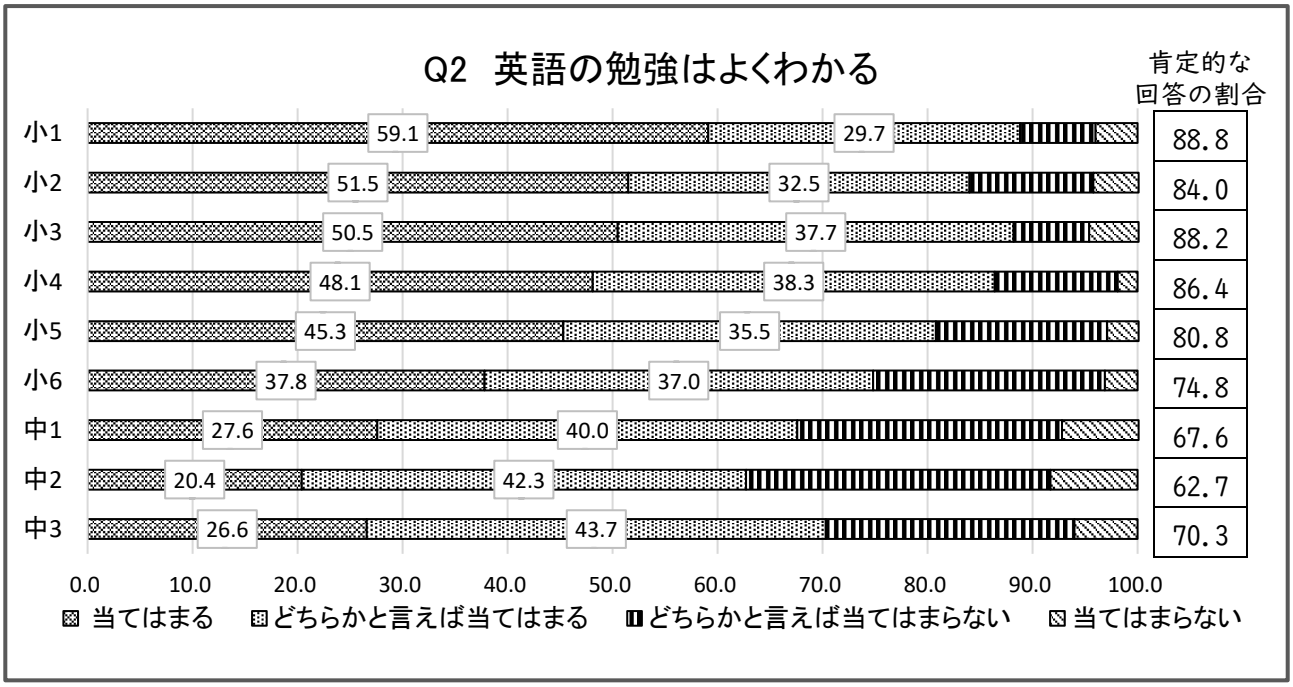
昨年度までと同様に、学年が上がるにつれて肯定的な意見（当てはまる、どちらかと言えば当てはまる）の割合が低くなる傾向がみられる。特に、小学校4年生から5年生と5年生から6年生の肯定的な意見の割合の減り方は、1年生から4年生までの減り方と比べると、大きくなっている。グラフを全体的に捉えると、肯定的な意見の割合は、小学校6年生を境に減少から増加へと変わっていく。また、下の昨年度の結果と比較して、現6年生の昨年度の結果（小5：76.7）と今年度の結果（小6：59.1）を見ると 17.6 ポイント低くなっており、最も差があった。

小学校5・6年生からの「読む」「書く」活動が加わったことにより「できる、できない」を意識する場面が増えたことが影響していると考えられる。小学校段階での「読むこと」「書くこと」については、音声で十分に慣れ親しませることが前提にあり、子供たちに抵抗感なく指導していく必要がある。また、小学校から中学校へとスムーズな接続が必要である。

（参考）令和２年度の結果



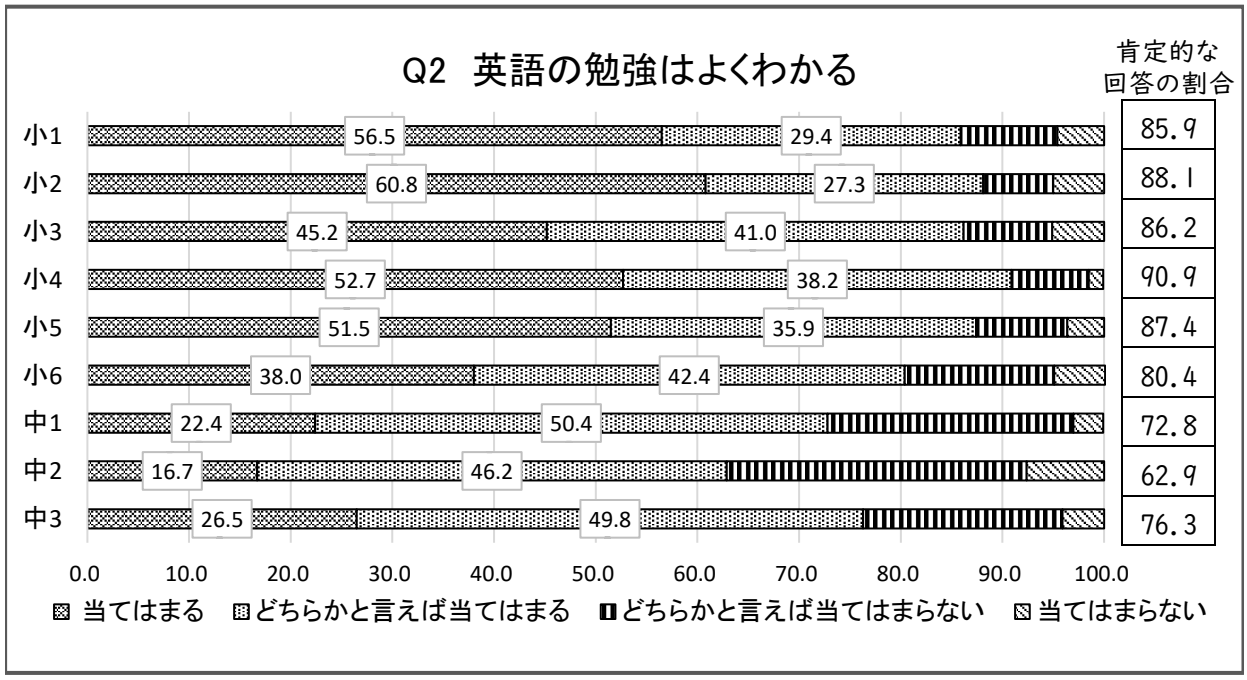
（２）理解度「英語の勉強はよくわかる」



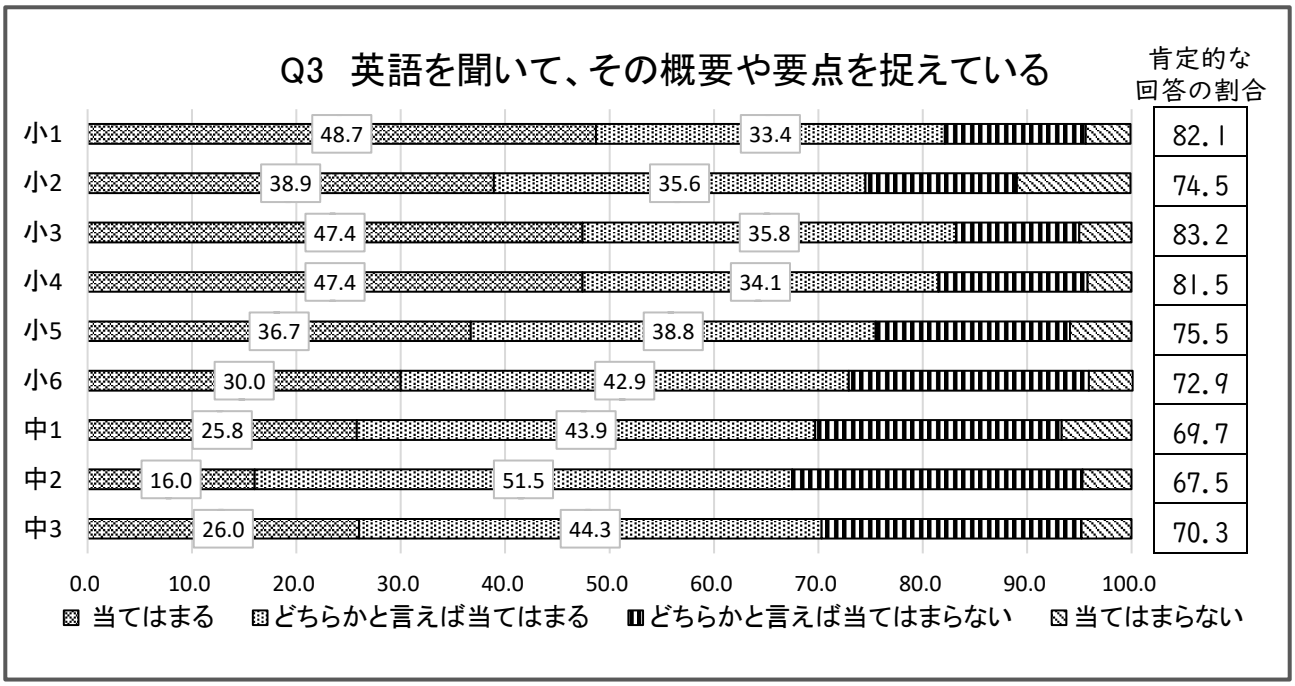
小学校のほとんどの学年の肯定的な意見の割合が8割を超えているが、中学校は6割台となっている。下のグラフをもとに同学年を比較すると、肯定的な意見の割合は小学校１年生と3年生で増加がみられたが、ほとんどの学年で減少している。また、昨年度の自分たちと比較しても減少している学年が多い。コロナ禍ということで、コミュニケーション活動が制限されたこと、ALT の不在な時期があったことも減少の要因になっていると考える。

専科教員や HRT、ALT、JAT の T･T の在り方、英語を用いたコミュニケーションの場の設定の在り方等、英会話科等定例会にて指導方法を再確認し、児童生徒の「楽しい」という意識を高め、「分かる」「できる」につなげたい。

（参考）令和２年度の結果



（３）聞くこと「英語を聞いて、その概要や要点を捉えている」



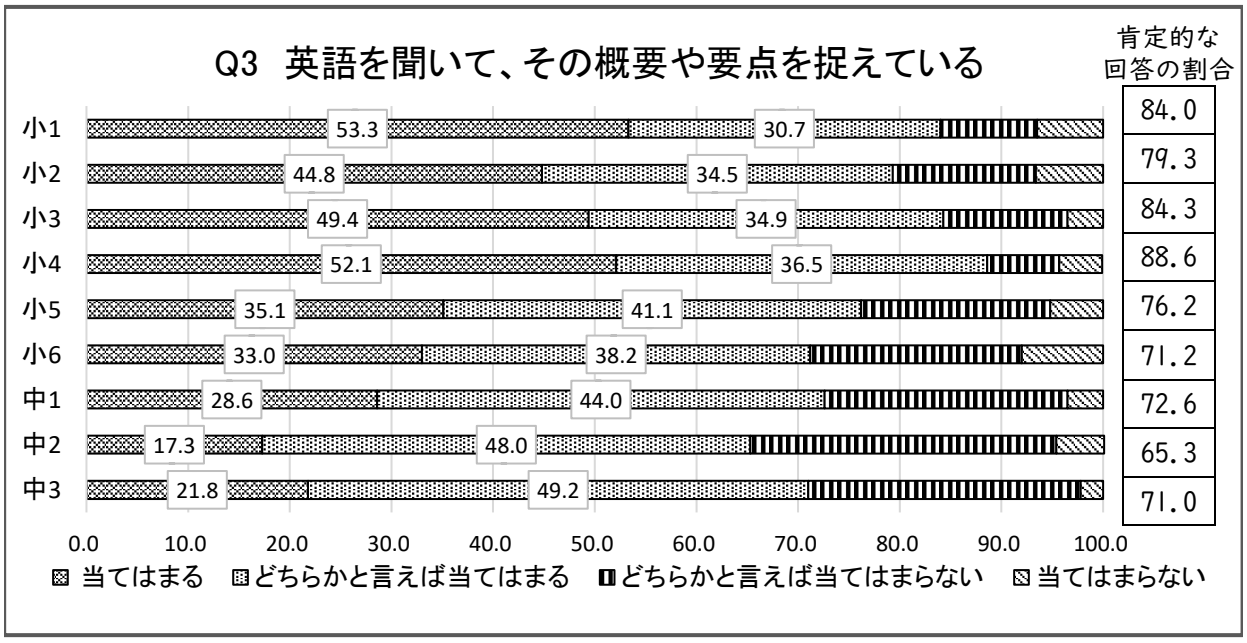
小学校の肯定的な意見の割合は8割前後、中学校は7割前後となっている。下の昨年度のグラフ同様、全体的に学年が上がるにつれて肯定的な意見の割合が低くなっていく傾向がみられる。

英語をすぐに日本語で通訳するのではなく、英語で話す速度を変化させながら複数回聞かせる、大切なワードを強調するなど、児童生徒が内容を類推しながら聞くことができるように工夫していく必要がある。中教研学力調査（11月調査）の英語科におけるリスニング領域について県平均と本市の平均を次のように比較した。

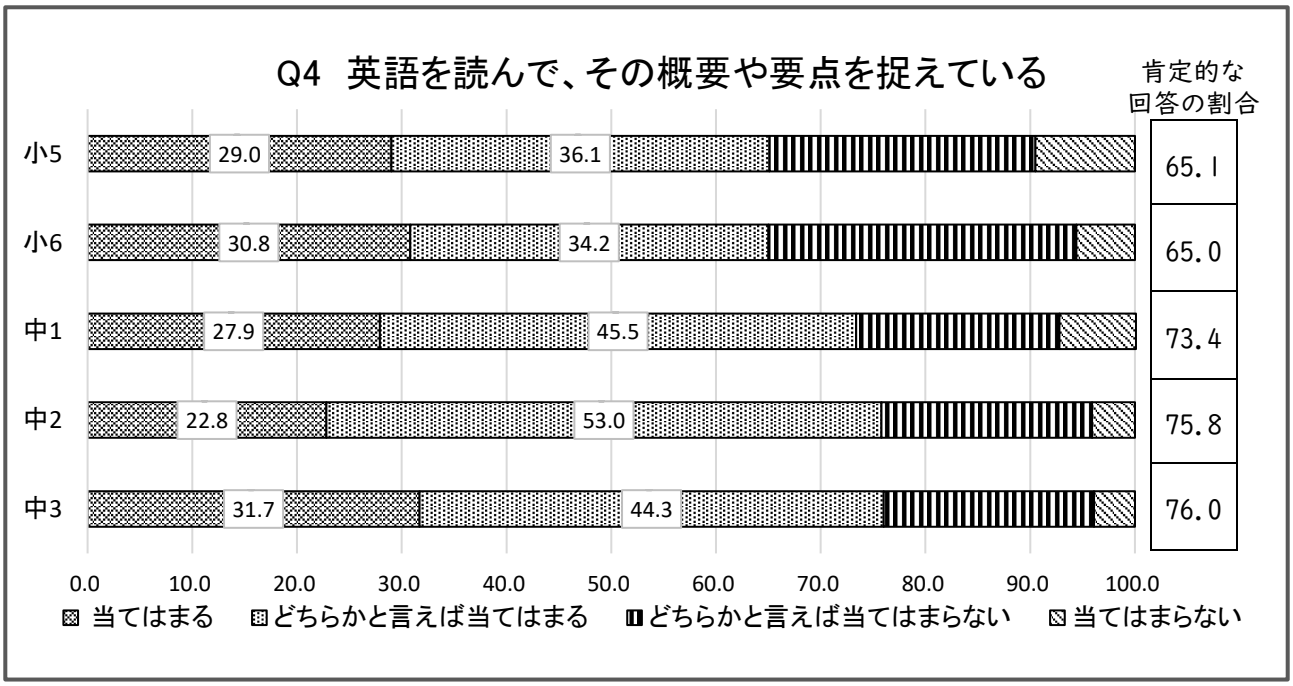
$$\frac{\text{本市のリスニング領域の平均正答率}}{\text{富山県のリスニング領域の平均正答率}} \times 100$$

その結果、中学校1年生・・・104、2年生・・・103、3年生・・・104となり、3つの学年ともに100を超え、聞く能力が優れていることが分かる。

（参考）令和２年度の結果



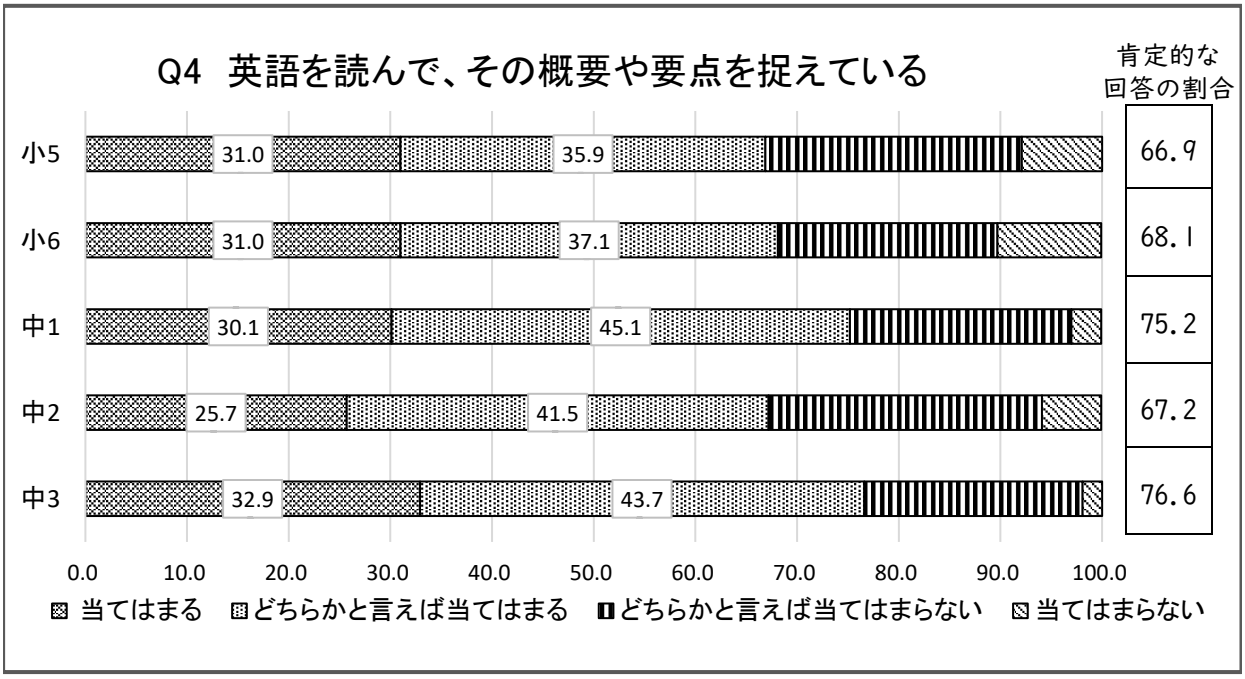
（４）読むこと「英語を読んで、その概要や要点を捉えている」



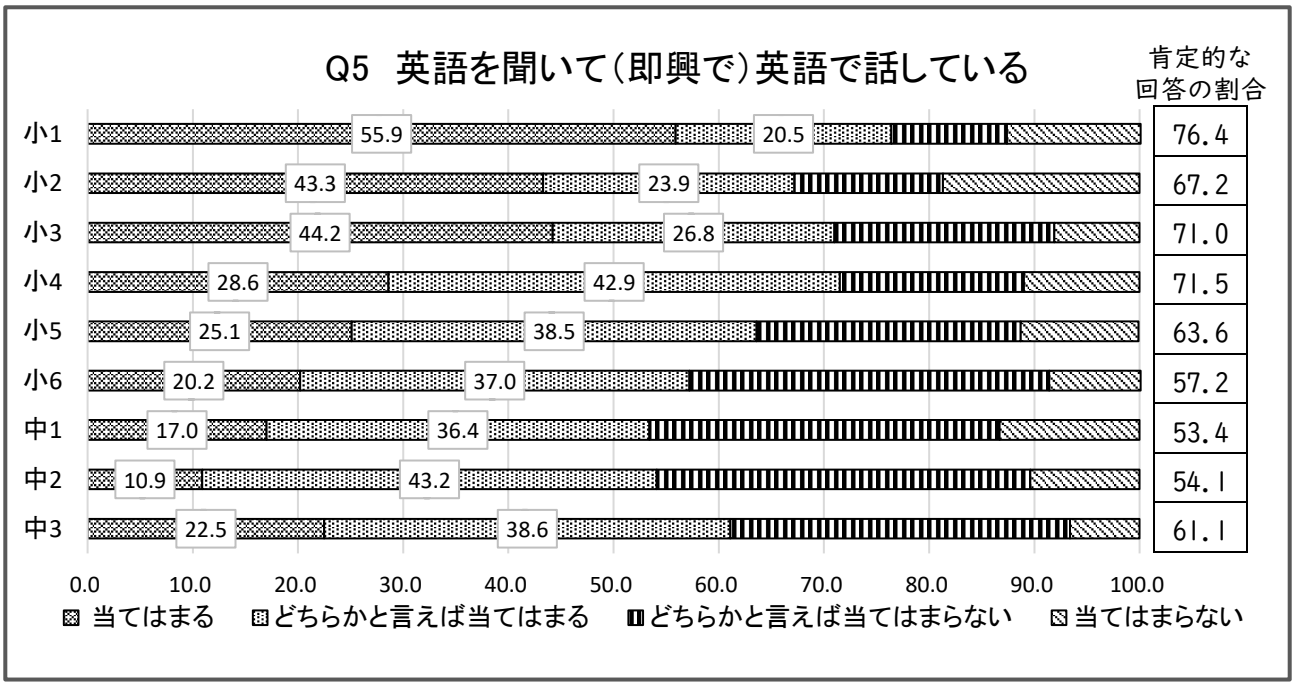
小学校の肯定的な意見の割合は6割台、中学校は7割台となっている。学年が上がるにつれて徐々に英語を読んで概要や要点を捉えることができるようになってきている。

下のグラフより昨年度の自分たちと比較すると、ほとんどの学年で肯定的な回答の割合が増えており、英語を読んで概要や要点を捉えることができると自覚している児童生徒の割合が増えてきている。

（参考）令和２年度の結果



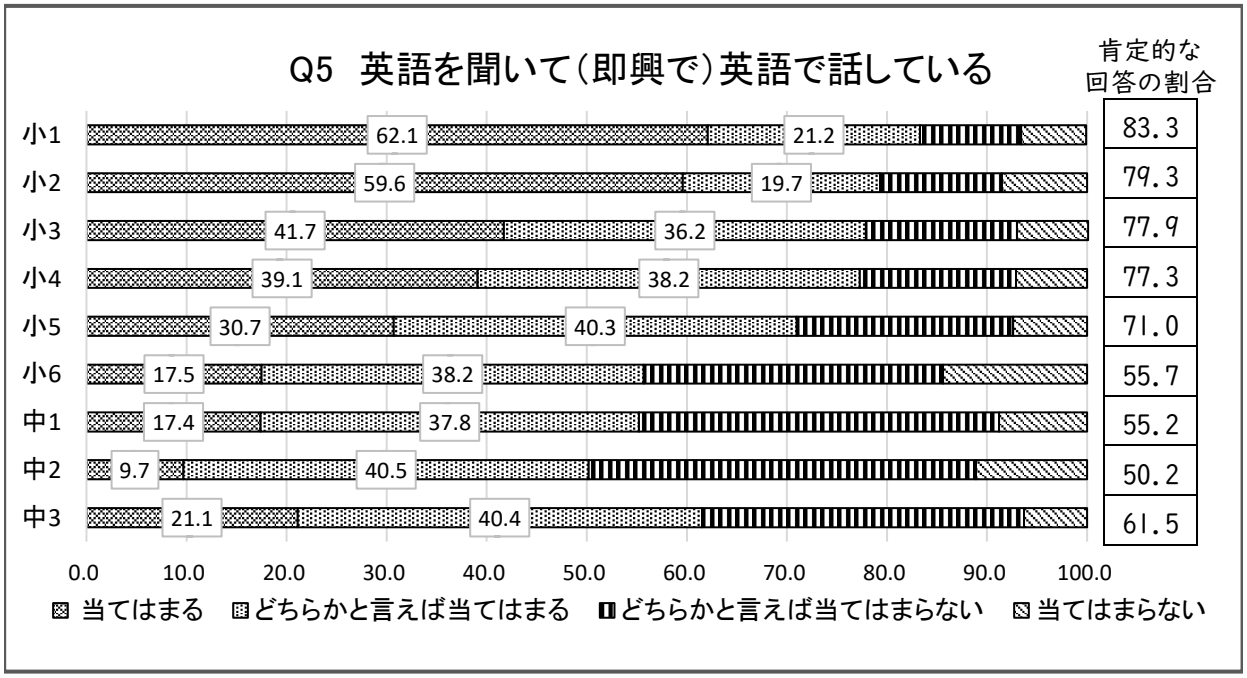
（５）話すこと（やり取り）「英語を聞いて（即興で）英語で話している」



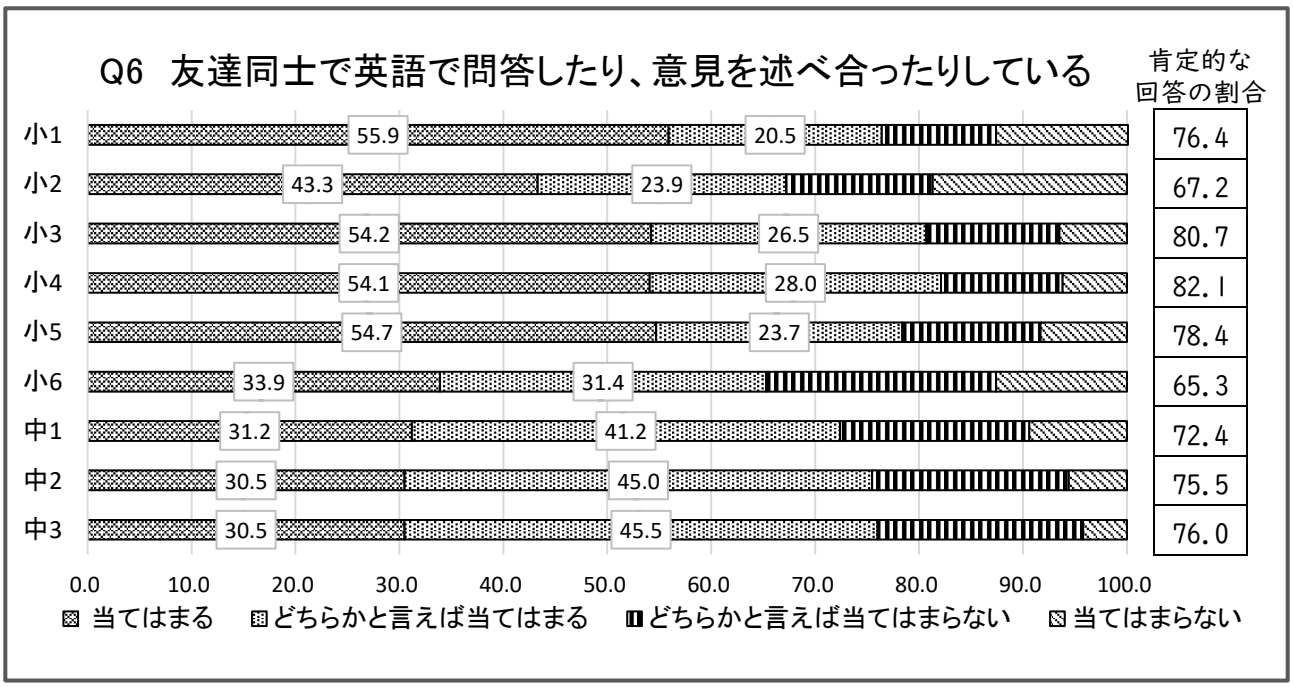
昨年度のグラフと比べると全体的に同じような概形となっているが、多くの学年で少しずつ肯定的な意見の割合が減ってきている。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対応として、三密を避けるため、対面でやり取りする活動を控えていた時期があったことが影響していると考えられる。また、ALTが不在な時期があり、英語を使う必要性が少なくなったことも影響していると考えられる。

授業における「スモールトーク」等、学んだ英語表現を活用しながら児童生徒が即興でやり取りする場を大切にしていく必要がある。「自分の話したことが相手に伝わった」「相手の話していることが分かった」という経験が、コミュニケーション活動の意欲を高め、英語の勉強に対する「好き」という気持ちにつながっていくと考える。

（参考）令和２年度の結果



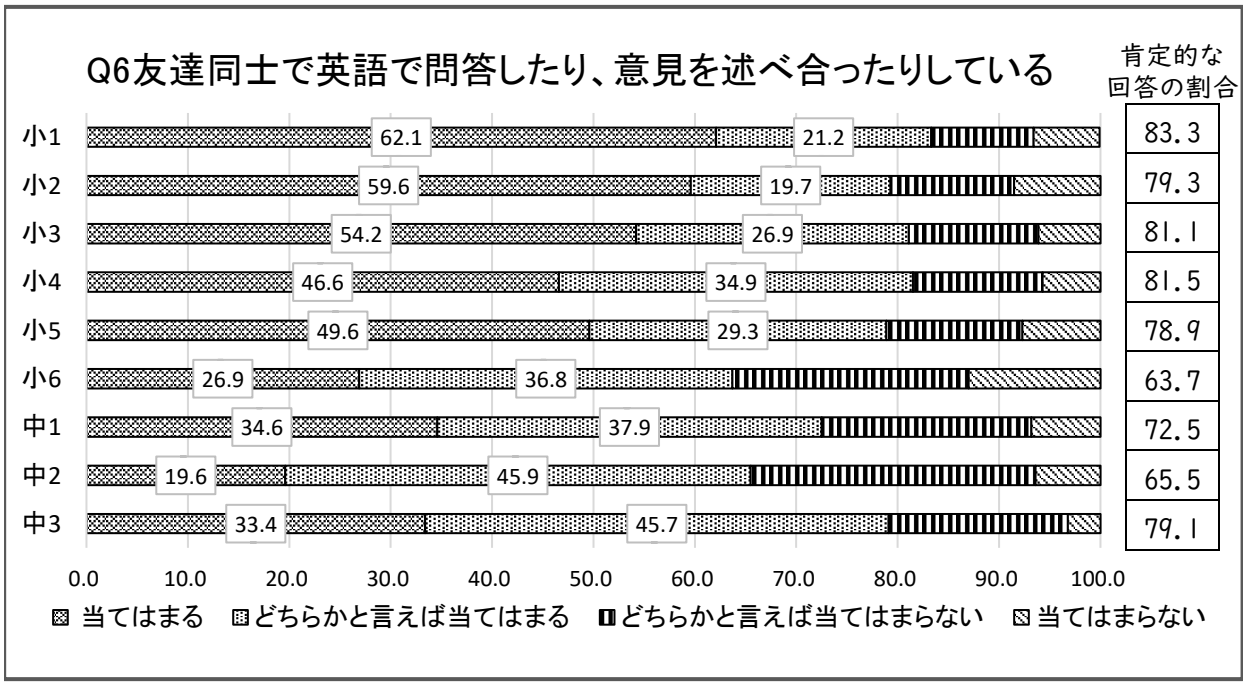
（６）話すこと（やり取り）「友達同士で英語で問答したり、意見を述べ合ったりしている」



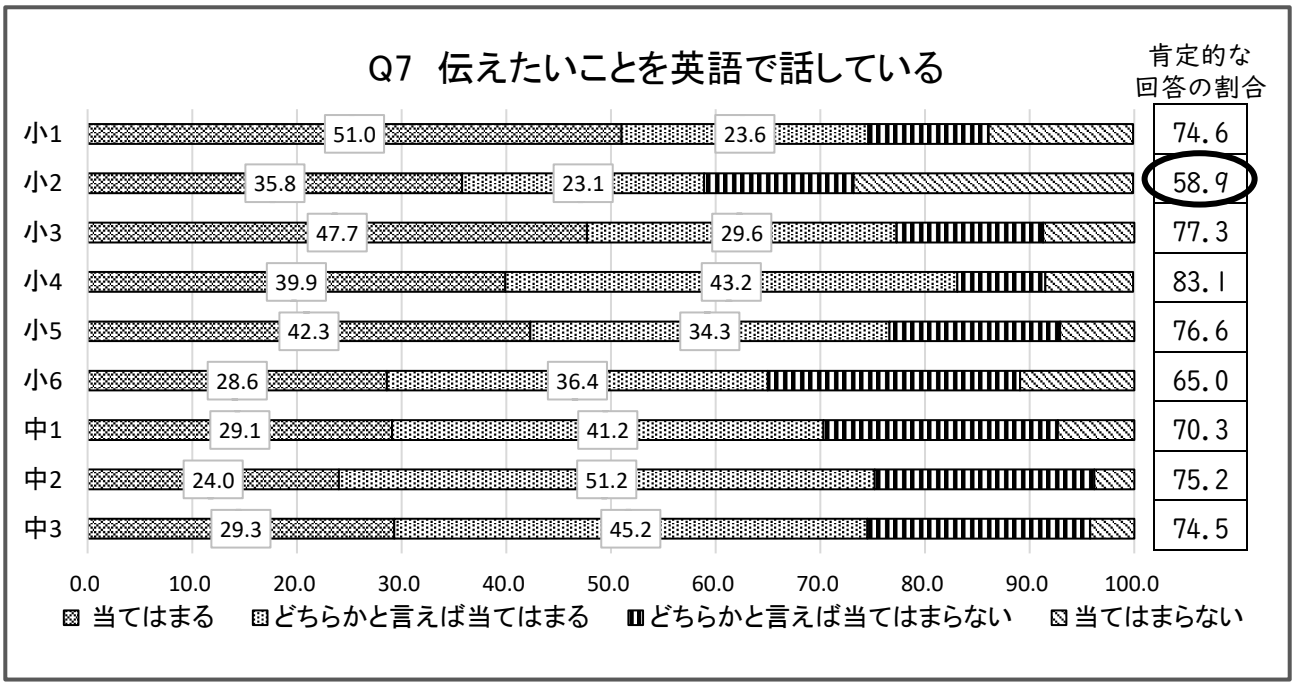
下のグラフをもとに、昨年度の自分たちと比べると現小学校2年生（小2：67.2、小1：83.3）と6年生（小6：65.3、小5：78.9）で 10 ポイント以上低くなっているが、他の学年は高くなってきている。特に、現中学校1年生（中1：72.4、小6：63.7）と3年生（中3：76.0、中2：65.5）は 10 ポイント近く高くなっている。

これは、昨年度、ほとんどコミュニケーション活動を行えなかったことに比べ、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染状況を考慮しながら、工夫してコミュニケーション活動を取り入れてきたことが影響していると考えられる。引き続き、児童生徒同士での英語でのやり取りを工夫しながら進めていくとよいと思われる。

（参考）令和２年度の結果



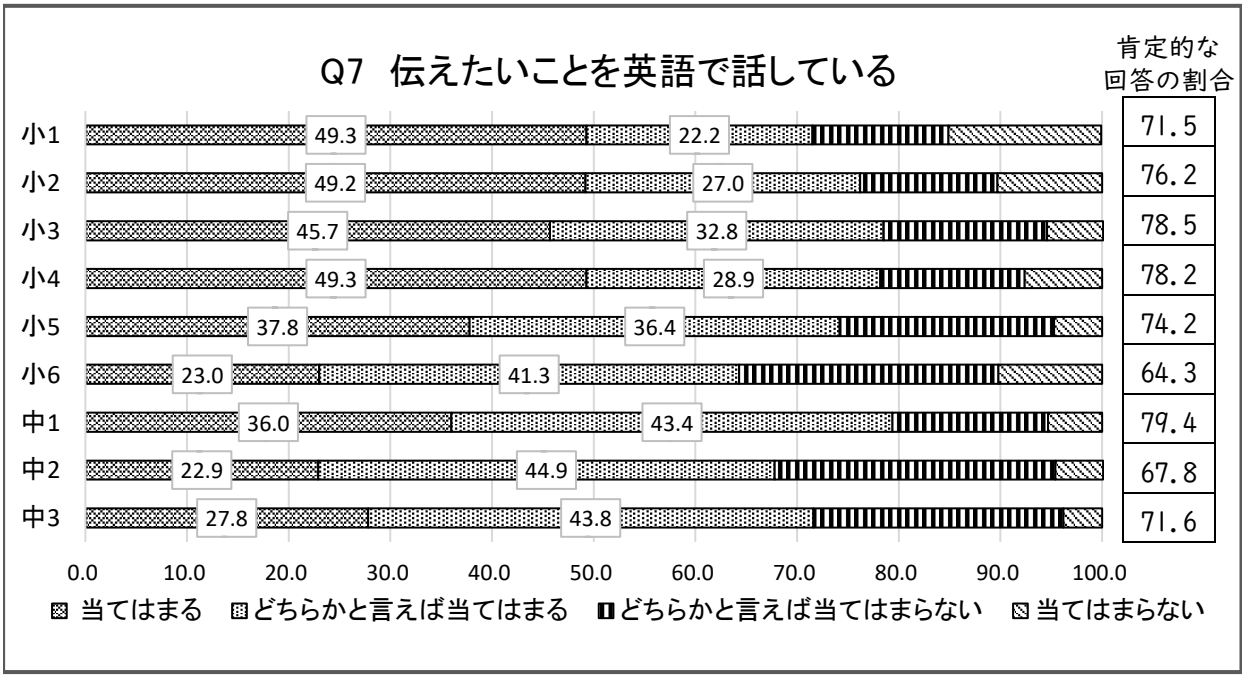
（７）話すこと（発表）「伝えたいことを英語で話している」



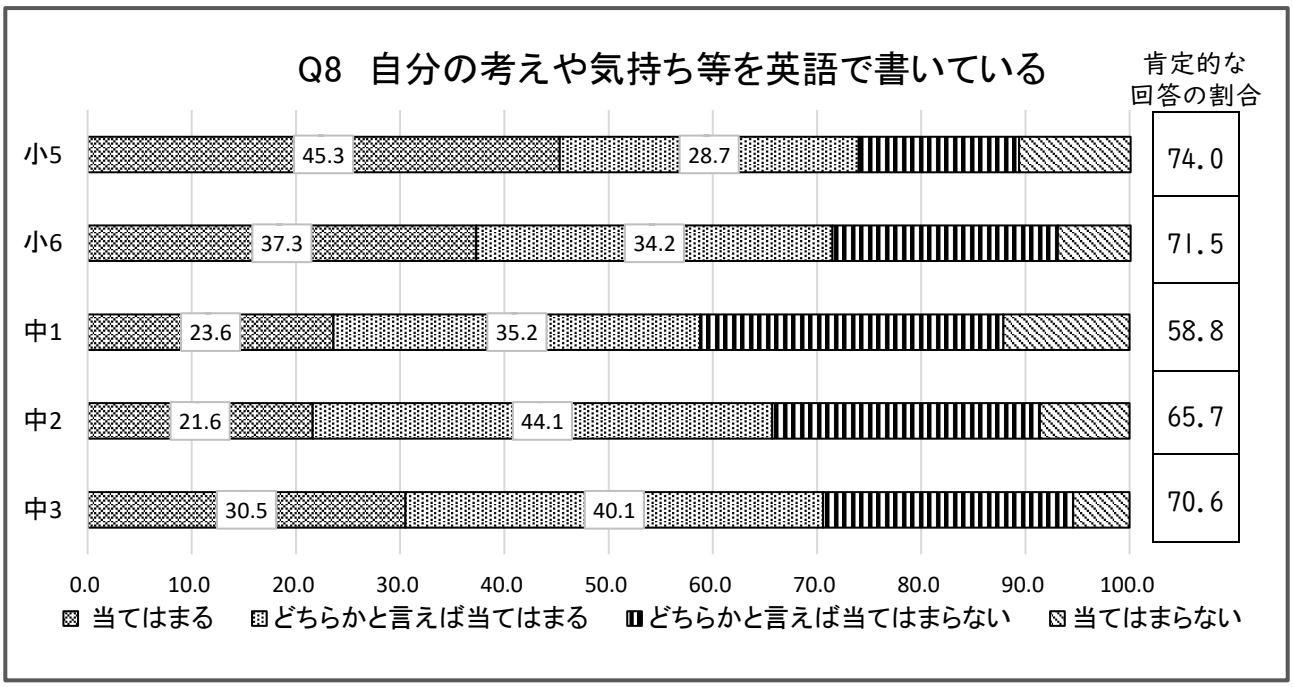
昨年度と比べ、小学校2年生で「当てはまらない」の割合が2割程度いたため、肯定的な意見の割合に落ち込みがみられたが、肯定的な意見の割合は7割程度となっている。

今後も学校における新しい生活様式の下で、児童生徒が興味をもち、英語を用いて伝え合いたいと思う具体的な場面を準備し、英語でのやり取りや発表を工夫していくことが大切である。

（参考）令和２年度の結果



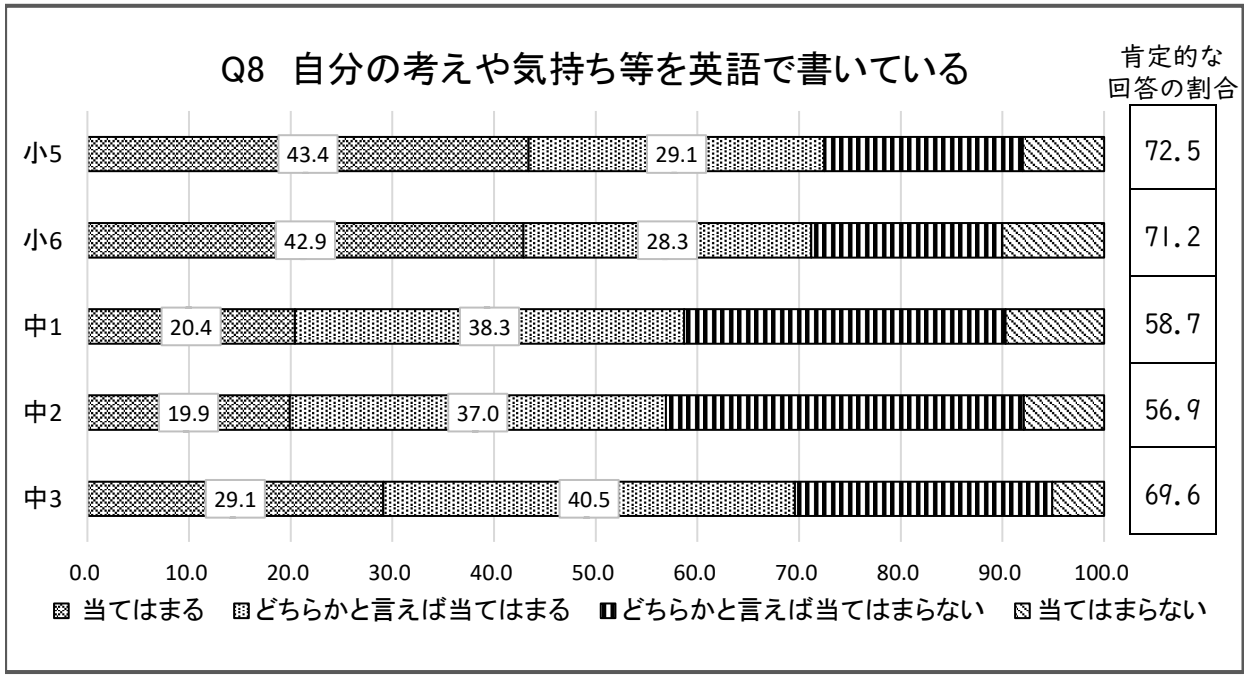
（８）書くこと「自分の考えや気持ち等を英語で書いている」



肯定的な意見の割合は6割台となっているが、下の昨年度のグラフにおいて、同学年を比べると肯定的な意見の割合が少しずつ高くなってきている。小学校と中学校の肯定的な意見の割合を比べると、小学校は7割程度に対して、中学校は６割台となっている。また、小学校は学年が上がるにつれて、肯定的な意見の割合が下がる傾向にあるが、中学校は上がる傾向にある。

小学校では、音声で十分に慣れ親しませた後、相手に伝えるなどの目的をもって書き写すことができるようにしていく必要がある。中学校では、小学校とのスムーズな接続を図ることができるように、生徒の実態を把握し、小学校での学びを振り返りながら授業を進めていくことが必要である。

（参考）令和２年度の結果



（９）英語の学習で身に付けたい力

「あなたは英語を使ってどんなことをできる力を付けたいですか（複数回答可）。」

結果のグラフは、「次の①～⑦の中から当てはまるものをすべて選んで、○をつけてください」の問いに対して、○をつけた児童生徒の割合を、「付けたい力」ごとに学年別に表したものである。

① 国際社会で活躍できる力を付けたい

② 海外でのホームステイや語学研修を楽しむ力を付けたい

③ 外国の人と英語で日常的な会話をし、コミュニケーションを楽しむ力を付けたい

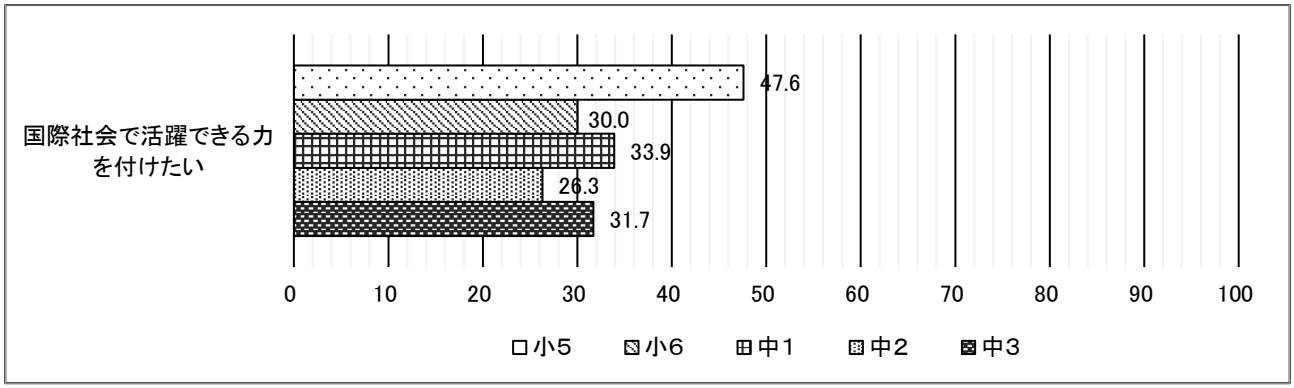
④ 高校卒業後に、海外の大学等に進学できる力を付けたい

⑤ 高校入試に対応できる力を付けたい

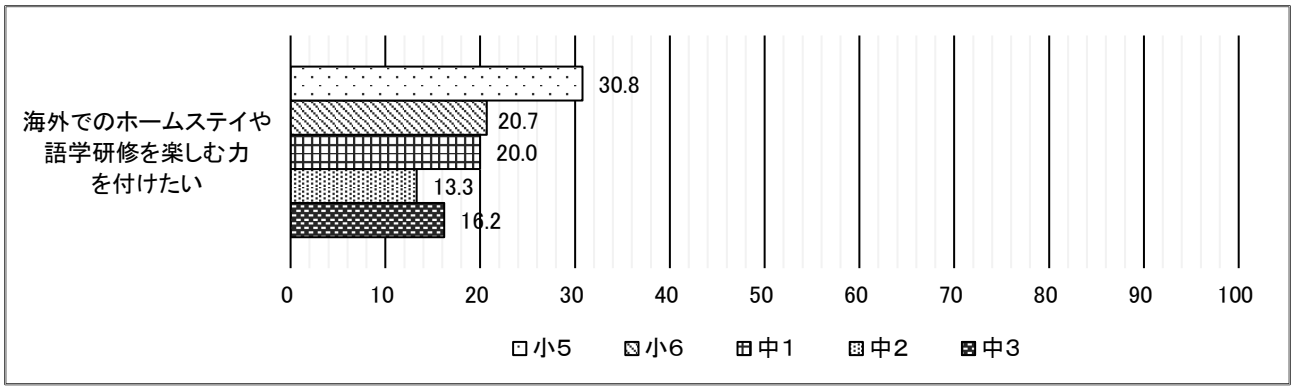
⑥ 英検や TOEIC 等に対応できる力を付けたい

⑦ その他

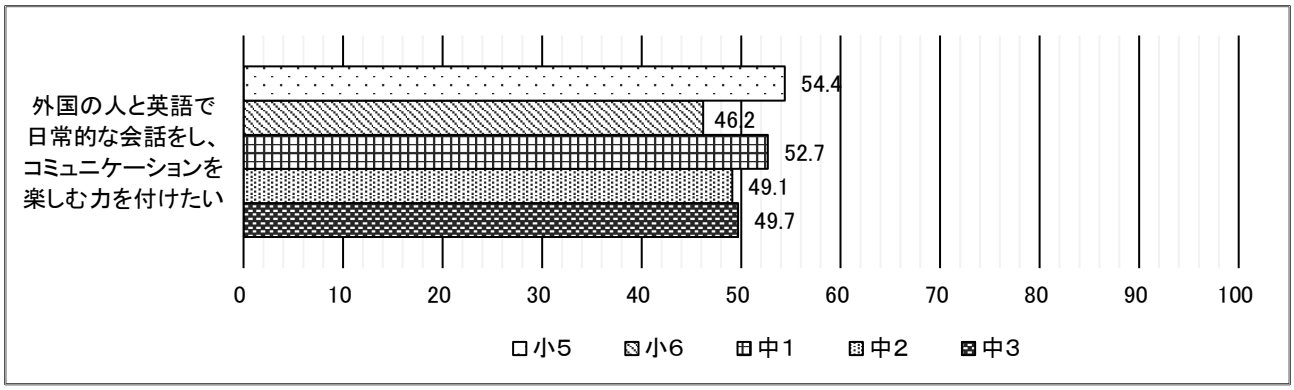
① 国際社会で活躍できる力を付けたい



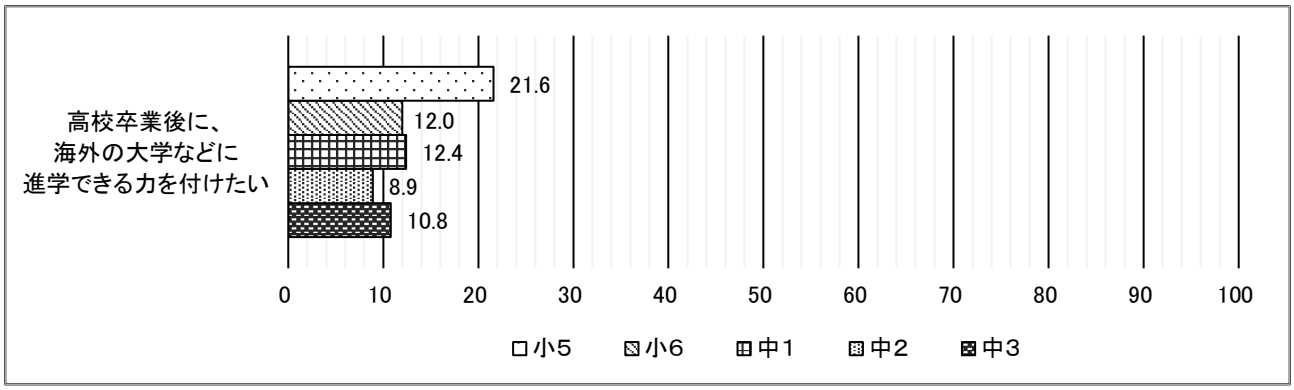
② 海外でのホームステイや語学研修を楽しむ力を付けたい



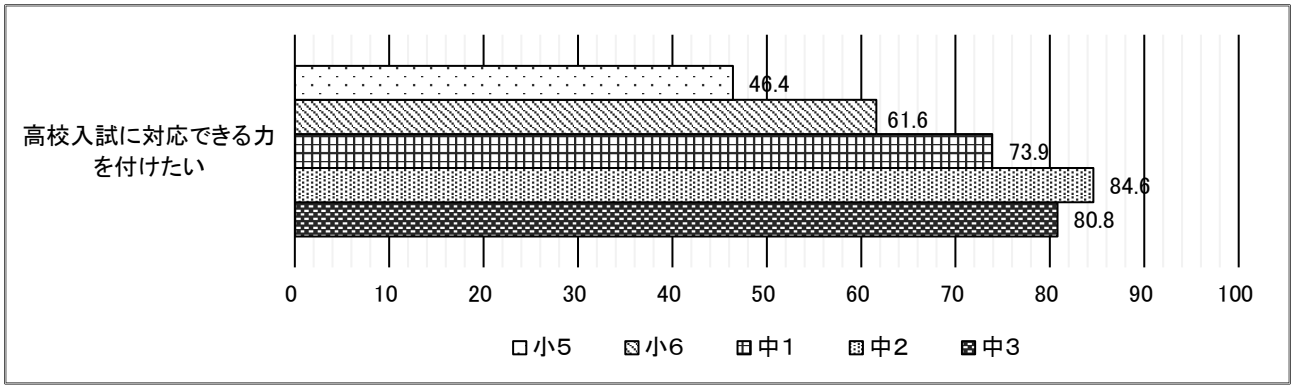
③　外国の人と、英語で日常的な会話をし、コミュニケーションを楽しむ力を付けたい



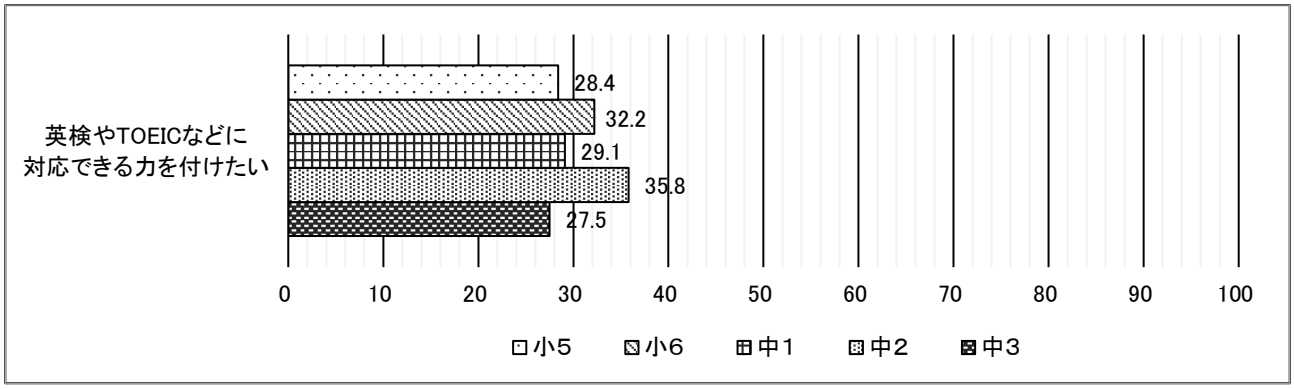
④　高校卒業後に、海外の大学等に進学できる力を付けたい



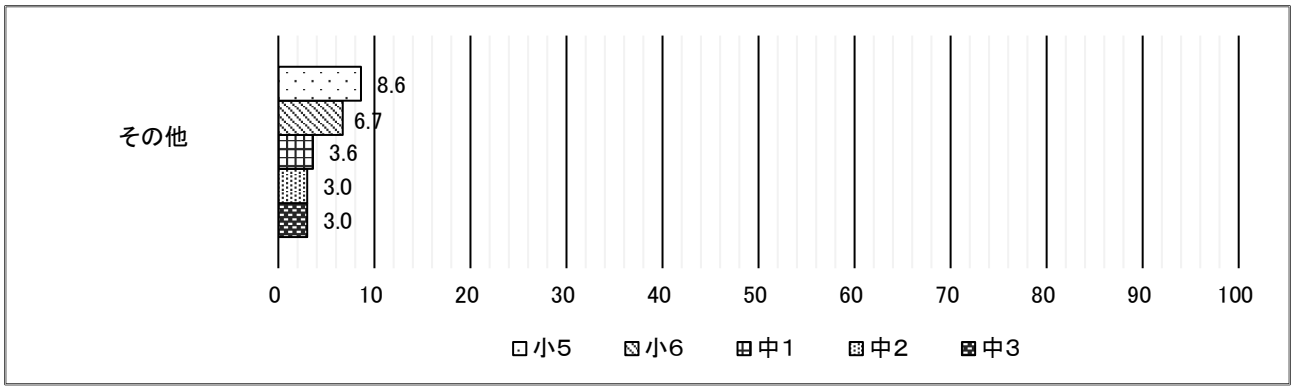
⑤　高校入試に対応できる力を付けたい



⑥　英検や TOEIC 等に対応できる力を付けたい



⑦　その他



その他の記入にあった主なもの

＜小学校＞

・海外旅行で買い物などのやりとりをする力を付けたい。
・海外旅行に行ったとき、少しでも話せるようになりたい。
・ゲームのボイスチャットで外国の方と話したりできる力を付けたい。
・先生のように英語を話したい。
・スポーツで海外に行くときに使いたい。
・書いた言葉などすぐに分かるようになりたい。
・英語で歌を歌えるようにしたい。
・簡単な英語でも海外の人たちの分かりやすい発音の英語をしゃべってみたい。
・質問されたら、英語で答えられる力をつけたい。

＜中学校＞

・英語のサイトを原文のまま読みたい。
・道案内の対応ができるようになりたい。
・医師になるために必要な英語能力を身に付けたい。
・英語で論文を書いたり、発表したりできるようになりたい
・将来、海外の人と仕事をするときに、専門的なことを英語で話せるようになりたい。
・外国の映画や音楽が分かるようになりたい。
・英語が話せるとかっこいいと思うから。

2 学校質問紙

市内の小・中学校を対象に、アンケート調査を行った。

【実施時期】　令和3年12月15日～令和4年1月14日

【実施校数】　小学校9校、中学校2校 ※市内全小・中学校が回答

【質問項目】
(1)コロナ禍における学習の工夫についての成果と課題 ※自由記述
(2)T・T についての成果と課題 ※自由記述
(3)英語の日常化に向けた環境整備についての成果と課題 ※自由記述
(4)「This is Kurobe」や「Picture card」の活用についての成果と課題 ※自由記述
(5)英語科と英会話科の連携について ※自由記述
(6)その他 ※自由記述

調査の結果、主な意見をまとめると次のようになった。

1　コロナ禍における学習の工夫について

≪成果≫
・会話活動は、着座形態をなるべく取るようにした。
・アクティビティの際には、全員を一度に動かさずに、半数は着席のままで半数だけが移動するようにして密を避けたり、サイコロなどを共有して使用した場合は、事後に手指消毒したりするなどしていた。
・児童が教師の前に並ぶのではなく、児童が座る席へ教師が行くことで、密集を避けることができた。
・グループをつくるときは、児童の距離を保つために対面とならないように机の隊形を変更した。
・マスクの着用を徹底して話す活動を行った。

≪課題≫
・会話活動が似たものになりやすく、子供の興味を引く活動を考えるのに苦労した。
・マスク越しだと発音しにくい。口元が見えない。
・ゲーム等のアクティビティを制限せざるを得ない状況になると、座学が増え、子供たちの意欲が低下しがちなる。（２学期は、感染状況が落ち着いてきて、マスク以外はほぼ通常に近い形で学習ができた）
・子供同士のやりとりがない分、発話回数が少ない。

２　Ｔ・Ｔについて
（ＡＬＴは他市町村に比べ多く配置、ＪＡＴやＪＥＴは本市独自の配置）

≪成果≫

・英語専科（担任）、ＪＡＴ、ＡＬＴの役割分担を打合せで明確にしておくことで、児童にも分かりやすく進めることができた。
・毎時間、ＡＬＴが入ってくださるのは非常に手厚く、ありがたい。
・ＡＬＴとＪＡＴが配置されており、児童は安心して取り組んでいる。役割分担をして臨むので児童にとって分かりやすい授業ができる。
・指導者が複数いることで、児童と１対１の直接会話の場面を多くとることができた。
・ＡＬＴと担任が児童とやり取りをすることで、児童は、何度も発話することができた。
・ＡＬＴがコミュニケーション活動を進めている間に、ＨＲＴが支援の必要な児童の補助に入ることができる。
・打合せ時に、ＪＡＴがＨＲＴのねらいを的確に把握し、ＡＬＴと連携を図っているため、授業がとてもスムーズに進行できる。
・英語科の授業にＡＬＴが来ることが少なかったが、やはりＴ・Ｔをすると生徒の反応がよい。
・英会話科で、ＡＬＴがＪＥＴと協力して自国の文化を伝える機会をもつことで、生徒が自然な英語の使い方や発音・異文化を体感することができている。

≪課題≫

・打合せや教材準備のための時間の確保が必要である。
・コロナ禍で仕方ない部分もあるだろうが、ＡＬＴが毎学期変わると子供との関係が希薄になる。（年間固定にならないものか）
・１、２年生にもＪＡＴが配置されるとよい。
・年度途中にＡＬＴが代わると、学習の進め方の違いで戸惑うことがある。
・授業の取組の説明をする際、英語と日本語をどれくらいの割合で使用するかの加減が難しいと感じる。生徒の習熟度に応じて英語のみの説明で大丈夫かどうかの判断が求められるので、英語科の授業進度を常に念頭に置いておく必要がある。
・時数の関係で、英語科のＴ・Ｔは２週間に１度であったため、単元によっては中途半端になってしまうことがあった。ＡＬＴの負担にならない範囲で、英語科のＴ・Ｔを確保したい。

３　英語の日常化に向けた環境整備について

≪成果≫

・英語コーナーで、ＡＬＴの母国文化について紹介してもらい日本との違いや共通点を知ることができた。職員室前に English コーナーを設け、英語の挨拶や季節に合わせた写真や絵を掲示している。
・毎週木曜日、給食時の放送でＡＬＴが児童からの質問に答える「ハッピーイングリッシュ」を行っている。

・リアクションワードを朝の会で取り入れ、英会話の日常化を図っている。
・「世界を知ろう」という掲示コーナーを廊下に作り、メーコンについてのクイズや外国に住んだことのある生徒へのインタビュー等を掲示している。
・インタラクション（対話的やりとり）を英語で行うことを意識した結果、生徒が英語を使う機会が多くなった。

≪課題≫

・週に１～２時間程度の授業内だけでは定着を図ることが難しいので、リアクションワード等を他の授業でも使ったり、掲示していつでも目に触れるようにしたりしようと思いながら、なかなかできていない。
・休み時間にＡＬＴと会話したり自然に挨拶したりできるようになっている。さらにクラスルームイングリッシュを使うようにして、日常的に英語での自然な会話を増やしていきたい。
・「英語の日」を月１回設ける。
・専科教員が担当してくれて、とても助かっているが、担任が英語から離れてしまっている。日常化には担任の働きかけが重要であるが、授業に出ていないと意識しにくい面がある。
・日常的に英語にふれる機会や環境づくりが必要である。

４　「This is Kurobe」や「Picture card」の活用について（小学校は活用した場面があれば記入）

≪成果≫

・英語コーナーで、校区の有名な場所を紹介するカードを掲示し、どんなことが書かれているか解説するコメントを付けた。子供たちも興味をもっていた様子であった。
・Picture card 付きの黒部市の地図を English コーナーに常時掲示している。
・１週間ごとにはりかえをして、校内掲示をしている。
・日本語訳は下に書いている。児童は、興味をもって読んでいる。
・毎週木曜日の昼の放送で「This is Kurobe」の内容を生かした English Time（ＡＬＴとＪＡＴによる黒部についてのクイズ）を実施している。児童たちは放送をよく聞いて、英語を身近に感じることができている。放送後、クイズで紹介した黒部の名所（Picture card と英語の紹介文）を職員室前の掲示板に掲示している。児童はＡＬＴとＪＡＴが作成した掲示を興味深く見ている。
・英会話科で 3 年生が黒部市の名所や特産を説明したコマーシャルを作成する際に参考として活用することができている。

≪課題≫

・小学生は「Picture card」を読めないため写真と表題のみ使っている。英語に興味をもたせるには説明文を見せてＡＬＴが読んでもよいが授業で活用する場面がない。
・「This is Kurobe 2020」を一部印刷し、廊下に掲示して５、６年生の目に触れるようにしたが、英文が難しかった。「Picture card」にある日本語訳のついたものを合わせて掲示するなどの工夫が必要であった。

・掲示用に使うことがあるが、特に授業の中での活用場面が見られなかった。今後、意識して活用していくようにしたい。
・「This is Kurobe」は形骸化しており、生徒が喜んで取り組む課題になっていない。（先輩の作品がもうできている）
・「This is Kurobe」の作成に重きが置かれており、活用のための作成になっていない。
・「This is Kurobe」の紹介内容を工夫したらよい。特産品や行事の紹介だけでなく、黒部市そのものの歴史や産業、まちづくりに関連した内容にすると、黒部市に関する理解が深まり、紹介する内容がさらに豊かになることが期待できる。

５　英語科と英会話科の連携について（中学校のみ）

≪成果≫
・授業で扱う言語材料の情報交換を行い、つながりは意識できた。
・日頃から、英語科の授業の進度等を確認し、英会話科での学習内容が生徒にとって無理のないものか確認している。
・教科書の題材として扱う曲を英会話科の授業で習ったことによって、本文の内容理解が深まった。
≪課題≫
・それぞれの教科は単独で行うので、コラボ授業等はできていない。

６　その他（日頃の授業でかんじていること等）

≪成果≫
・黒部市は、英語専科または担任、ＡＬＴ、ＪＡＴが役割を分担して授業ができるので恵まれている。
・書く活動にも少しずつ慣れてきた。
・歌やコミュニケーション活動等を児童が、楽しみながら学習をしている。
・３・４学年の児童の振り返りを読むと、児童同士のやり取りを通して「友達のことを知ることができ、うれしい」と答える児童が多い。全体的に、外国語の学習を楽しんでいる様子である。
・日常の話題については話すことができる生徒が多くなってきたが、即興で話すことには難しさを感じている生徒が多い。特に、自分の意見や理由を言うことができない。
≪課題≫
・１、２年生は、年間10回という数少ない授業で、毎学期、のびゆく子の所見を書くのは難しい。（総合や道徳の所見を書くのは、年１回となった。）
・ＡＬＴと関わる時間が少なく、１対１での関わりに抵抗のある児童がいる。
・気持ちの即興表現が苦手な児童の割合が高い。
・低学年は、月に１回の英会話なので同じ内容が２回あってもよい。

令和３年度　黒部国際化教育に関するアンケート　質問内容一覧（案）

令和３年12月

質問項目 （４択で回答）		小学校１・２年生	小学校３・４年生	小学校５・６年生	中学生
		「えいかいわ」の べんきょう についてのしつもん	「外国語活動」の学習 に関するアンケート	「外国語科」の学習 に関するアンケート	「英語科」や「英会話科」の学習 に関するアンケート
1	興味・関心 **「英語の勉強は好きだ」**	えいかいわのべんきょうは　すきだ	外国語活動の学習は好きだ	外国語科の学習は好きだ	英語科や英会話科の学習は好きだ
2	理解度 **「英語の勉強はよくわかる」**	えいかいわのべんきょうは　よくわかる	外国語活動の授業の内容はよくわかる	外国語科の授業の内容はよくわかる	英語科や英会話科の授業の内容はよくわかる
3	聞くこと **「英語を聞いて、その概要や要点を捉えている」**	せんせいがはなすえいごをきいてどんなことをはなしているのかだいたい　わかる	英語（簡単な語句や基本的な表現など）を聞いて、だいたいの意味がわかる	英語を聞いて、（一文一文ではなく、全体的な）内容がわかる	英語を聞いて、（一文一文ではなく、全体の）概要や要点をとらえている
4	読むこと **「英語を読んで、その概要や要点を捉えている」**			英語を読んで、（一文一文ではなく、全体的な）内容がわかる	英語を読んで、（一文一文ではなく、全体の）概要や要点をとらえている
5	話すこと(やり取り) **「英語を聞いて（即興で）英語で話している」**	せんせいやともだちからのしつもんにえいごでこたえたり　じぶんからもえいごでしつもんしたりしている	英語で質問されたことに対して、特に準備をしなくても自分の考えや気持ちなどを英語で話している	英語で質問されたことに対して、特に準備をしなくても自分の考えや気持ちなどを英語で話している	英語で質問されたことに対して、即興で(特に準備をすることなく)自分の考えや気持ちなどを英語で話している
6	話すこと(やり取り) **「友達同士で英語で問答したり、意見を述べ合ったりしている」**		友達同士で英語で質問したり質問に答えたりしている	友達同士で英語で質問したり質問に答えたりしている	生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりしている
7	話すこと(発表) **「伝えたいことを英語で話している」**	じぶんのいいたいことをえいごではなしている	伝えたいことを、簡単な語句や基本的な表現を用いて英語で話している	伝えたいことを、簡単な語句や基本的な表現を用いて英語で話している	いくつかの文を合わせたスピーチなど、まとまった内容を英語で話している
8	書くこと **「自分の考えや気持ちなどを英語で書いている」**			簡単な英語を書き写したり、自分のことを例文を参考にして英語で書いたりしている	自分の考えや気持ちなどを英語で書いている

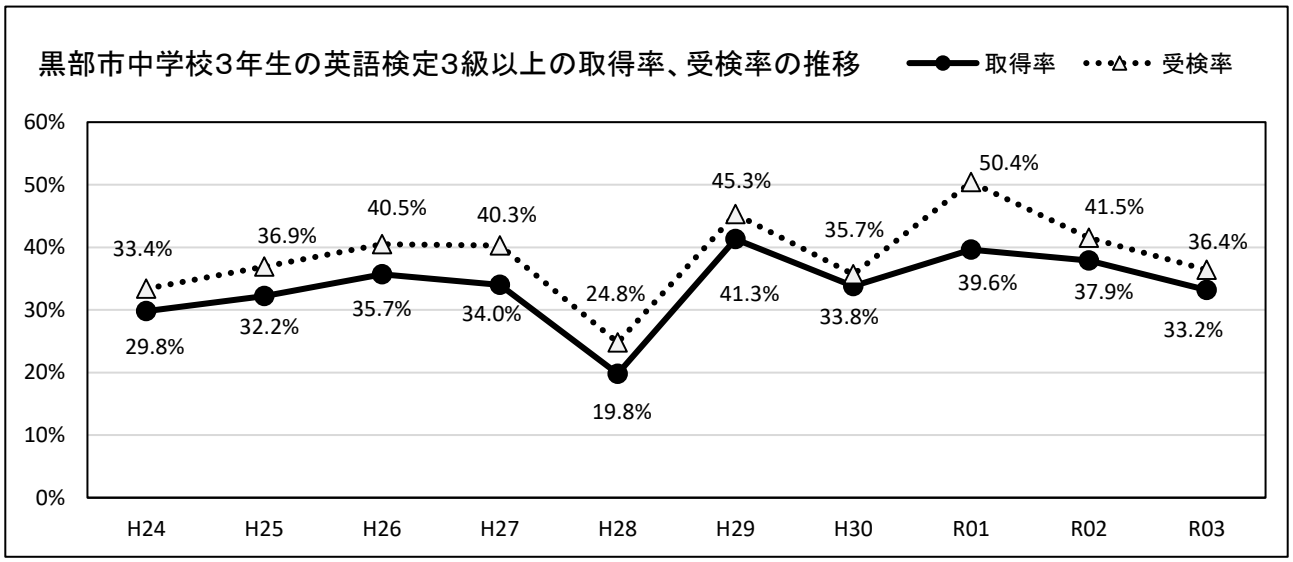
		小学校５・６年生	中学生
		あなたは英語を使ってどんなことができる力を付けたいですか。当てはまるものを**全て選んで**、〇をつけてください。	あなたは英語を使ってどんなことができる力を付けたいですか。当てはまるものを**全て選んで**、〇をつけてください。
9	1	国際社会で活躍できる力を付けたい	国際社会で活躍できる力を付けたい
	2	海外でのホームステイや英語の学習を楽しむ力を付けたい	海外でのホームステイや語学研修を楽しむ力を付けたい
	3	外国の人と英語で日常的な会話をし、コミュニケーションを楽しむ力を付けたい	外国の人と英語で日常的な会話をし、コミュニケーションを楽しむ力を付けたい
	4	高校卒業後に、海外の大学などに進学できる力を付けたい	高校卒業後に、海外の大学などに進学できる力を付けたい
	5	高校入試に対応できる力を付けたい	高校入試に対応できる力を付けたい
	6	英語検定（英検）やTOEIC（トーイック※）などの英語の資格に対応できる力を付けたい※仕事や海外生活で英語を生かすための英語能力テスト（点数評価）	英検やTOEIC（トーイック）などに対応できる力を付けたい
	7	その他に力を付けたいこと(具体的に記入してください)	その他に力を付けたいこと(具体的に記入してください)

学校質問紙		成果	課題
1	コロナ禍における学習の工夫について		
2	Ｔ・Ｔについて 担任（英語専科）、ALT、JATやJETとの連携		
3	英語の日常化に向けた環境整備について		
4	「This is Kurobe」や「Picture card」の活用について （小学校は活用した場面があれば記入）		
5	英語科と英会話科の連携について（中学校のみ）		
6	その他 （日頃の授業で感じていること等）		

※年間指導計画　小P30、中P94参照

Ⅱ　英語検定３級以上の取得率、受検率等

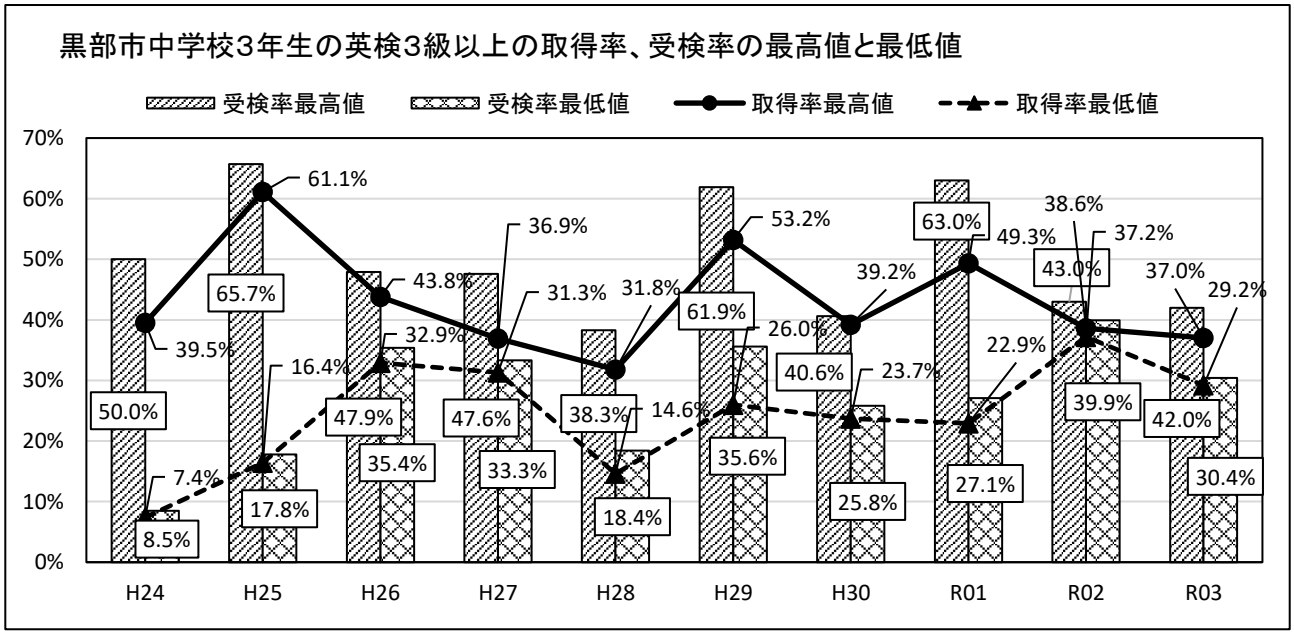
１　黒部市中学校３年生の英語検定３級以上の取得率、受検率の推移



令和3年度の受検率36．4%であり、昨年度と比べ5．1ポイント低くなった。取得率は33．2%であり昨年度と比べ4．7ポイント低くなった。合格率（取得率/受験率）は昨年度 91.2%、今年度91.3%で同程度だが、受検率の2校間の差がおよそ11ポイントあった。

取得率においては、第2次黒部市総合振興計画前期基本計画の中間目標（2022年）として設定した45．0%を約12ポイント下回っている。受検率の低下の原因としては、1学期の学校行事が2学期に変更になったため、英検実施日までの期間に十分な勉強の機会がなかったり、受検することを控えてしまう生徒がいたりすることが影響していたと考えられる。英検実施日について学校行事や部活動の大会の時期等と重ならないように十分に検討する必要がある。また、2次に向けての面接練習では、ALT や JET を含め、練習時間を工夫するなど支援体制を整える必要がある。

２　市内中学校における取得率、受検率の学校間の差
（令和元年度までは４中学校、令和２年度以降は２中学校）

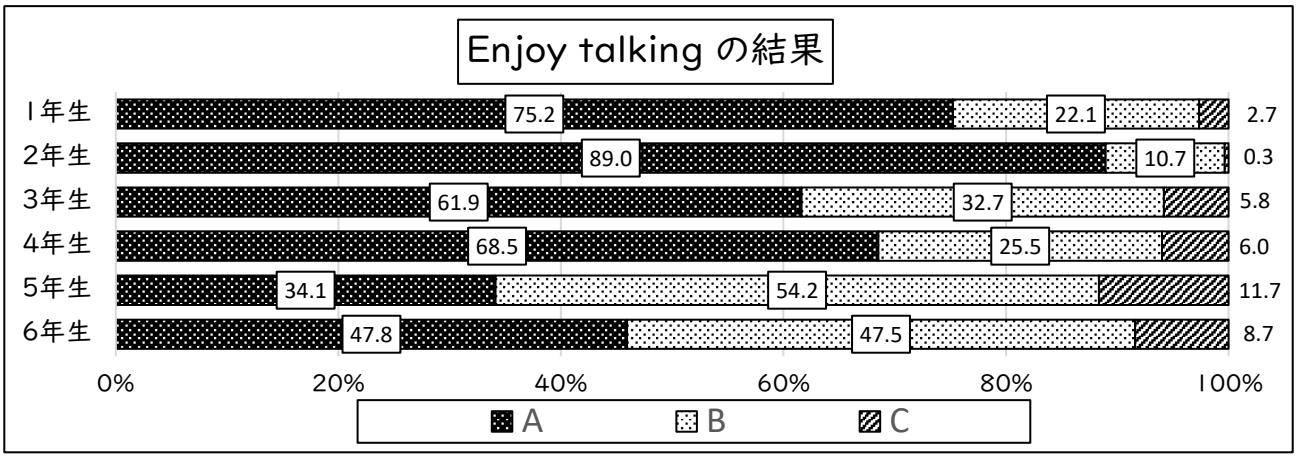


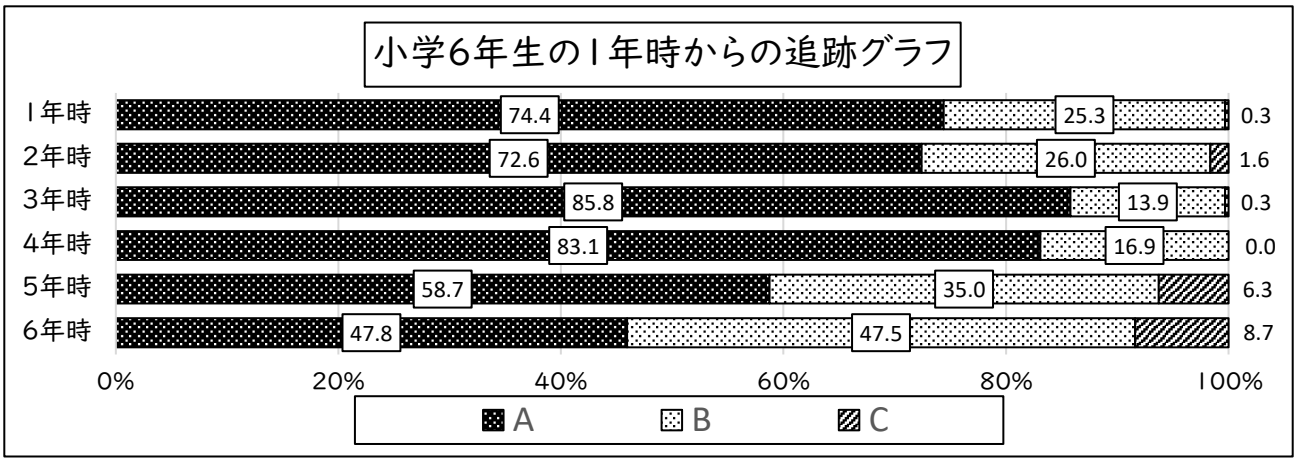
各学校とも生徒への広報的な活動はこれまでと同様に行っているが、学校間で差がみられた。

Ⅲ Enjoy talking の結果

(1) Enjoy talking の結果の集計結果

参考 3・4年生については、ALT が不在のため、実施できなかった学校があったため、8校分の結果を載せてあります。





学年		A	B	C
1	内容	ごく簡単な質問に対して		
	程度	・1文や1,2語程度で	・1,2語程度で	・不適切な語を使ったり
	対応	適切な語句や表現を用いて答えつつ、質問を返すなどのやり取りができる。	適切な語句や表現を用いて答えることができる。	適切な語句を使って答えることができない。
2	内容	ごく簡単な質問に対して		
	程度	・2往復程度で	・1文や1,2語程度で	・不適切な語を使ったり
	対応	適切な語句や表現を用いて答えつつ、質問を返すなどのやり取りができる。	適切な語句や表現を用いて答えることができる。	適切な語句や表現を用いて答えることができない。
3	内容	気持ちや考え、絵カードの質問に対して		
	程度	・3往復以上で	・2往復程度で	・1文や1,2語程度以下で
	対応	適切な語句や表現を用いて答えつつ、質問を返すなどのやり取りができる。	適切な語句や表現を用いて答えることができる。	限られた質問にしか答えることができない。
4	内容	自己紹介とその内容に対する質問に応じて		
	程度	・3文以上で(自己紹介) ・3往復以上で(やり取り) ・適切な音量で	・2文程度で(自己紹介) ・2往復程度で(やり取り) ・適切な音量で	・1文以下で(自己紹介) ・1往復以下で(やり取り) ・1,2語程度以下で(やり取り)
	対応	適切な語句や表現を用いて答えつつ、質問を返すなどのやり取りができる。	適切な語句や表現を用いて答えるなどのやり取りができる。	限られた質問にしか答えることができない。
5	内容	自己紹介とその内容に対する質問に応じて		
	程度	4文以上で(自己紹介) 4往復以上で(やり取り)	3文程度で(自己紹介) 3往復程度で(やり取り)	1,2文程度以下で(自己紹介) 1,2往復程度以下で(やり取り)
	対応	適切な語句や表現を用いて答えつつ、質問を返すなどのやり取りができる。	適切な語句や表現を用いて答えつつ、質問を返すなどのやり取りができる。	限られた質問にしか答えることができない。
6	内容	自分の関心事や地域についての発表とその内容に対する質問に応じて		
	程度	4文以上で(発表) 4往復以上で(やり取り)	3文程度で(発表) 3往復程度で(やり取り)	1,2文程度以下で(発表) 1,2往復程度以下で(やり取り)
	対応	適切な語句や表現を用いて答えつつ、質問を返すなどのやり取りができる。	適切な語句や表現を用いて答えつつ、質問を返すなどのやり取りができる。	限られた質問にしか答えることができない。

（2）成果（主なもの）

〈機会〉

・ALT との英語でのコミュニケーションを楽しむことができた。
・楽しくやり取りしながら、学習の成果を感じることができる機会となった。
・これまでの学習を生かして、ALT と直接話すことで、英語に対する親しみや有用感が高まる機会となった。
・「一人で言えた」「自分の英語が伝わった」という自信をつける場となった。

〈生徒〉

・天気や曜日は、授業で毎回質問しているので自信をもって答える児童が多くいた。
・目と目を合わせ、笑顔で挨拶することができていた。
・英語表現を忘れても、何とかして ALT に伝えようとしている姿がみられた。
・緊張感はあったが、やりとりを楽しんでいる様子がみられた。
・リアクションやジェスチャーを交えて楽しく会話していた。
・ALT の答えを聞いてスムーズに会話する児童が多くおり、相づちを打つこともできた児童もいた。

〈教員〉

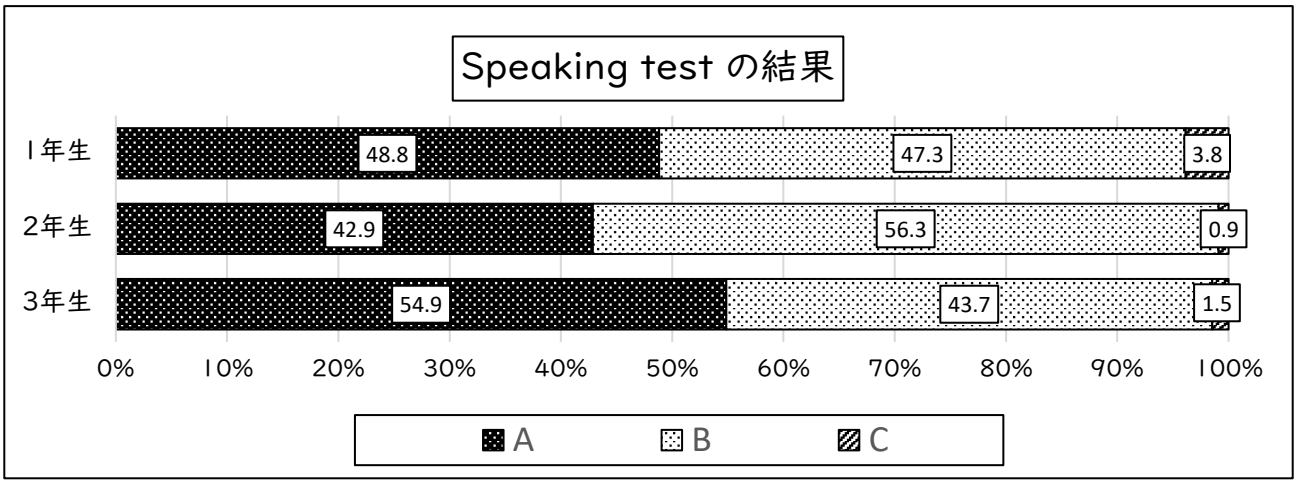
・指導者にとっては、今後の指導に生かすために、児童の実態を把握する機会となった。
・1 人 1 人の会話の様子をじっくり確認することができて、今後の指導に生かせると感じた。
・練習をしない分、実力がよく分かった。単語レベルで答える児童、文レベルで答える児童等、普段の Small Talk では十分に見取れない部分を評価することができ、よかった。
・授業では評価しにくい一人ずつの発音や表現が分かって実施してよかった。

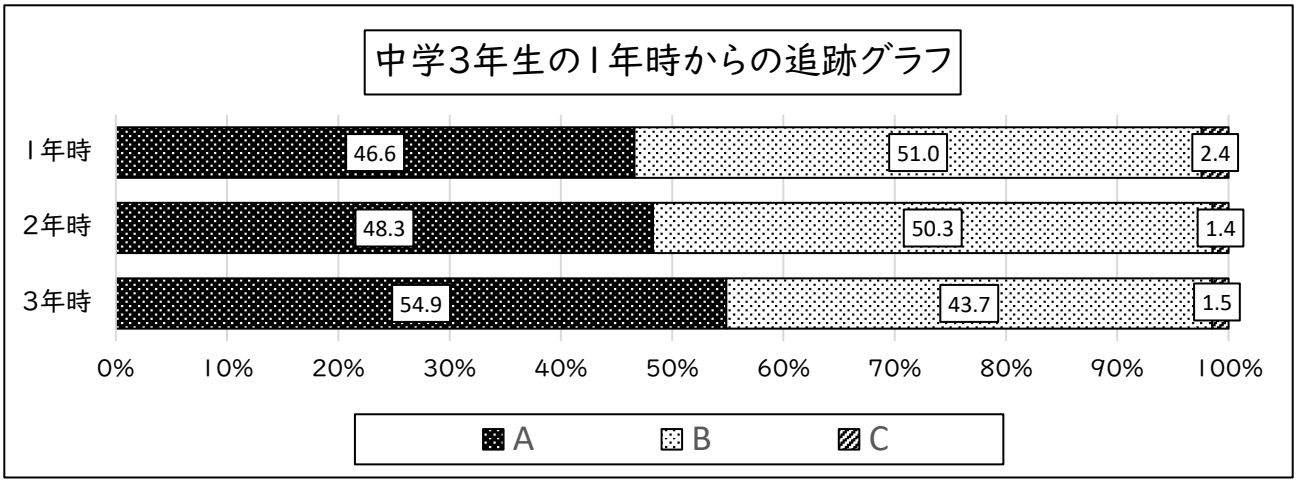
（3）課題（主なもの）

・学習内容の定着度に大きな差があったので、授業での言語活動を工夫し、苦手と感じている児童への支援方法を考えていく必要がある。
・平等な評価のためには、復習をどの程度、いつするのかなどを、学校間で統一する必要がある。
・Enjoy talking の実施を前に復習の時間を多くとるべきだったかと考える一方で、暗記にならないために、復習とのバランスが難しい。
・評価基準もルーブリックのように児童に示すことができるような形式で書いてあると、その具体がモデルになってよいのではないか。

Ⅳ Speaking test の結果

（1）Speaking test の結果の集計結果





学年		A	B	C
1	内容	自分の関心事や地域についての発表とその内容に対する質問に応じて		
	程度	・５文以上で（発表） ・５往復以上で（やり取り）	・３、４文程度で（発表） ・３、４往復程度で（やり取り）	・２文以下で（自己紹介） ・２往復以下で（やり取り）
	対応	適切な語句や文を用いて即興で答えつつ、相手に問い返すなどのやり取りができる。	適切な語句や文を用いて答えるなどのやり取りができる。	限られた質問にしか答えることができない。
2	内容	日常的な話題や地域についての発表とその内容に対する質問に応じて		
	程度	・６文以上で（発表） ・６往復以上で（やり取り） ・適切な音量で※	・４、５文程度で（発表） ・４、5往復程度で（やり取り） ・適切な音量で※	・３文以下で（自己紹介） ・３往復以下で（やり取り）
	対応	適切な語句や文を用いて即興で答えつつ、相手の気持ちや考えを確かめるために質問をするなどのやり取りができる。	適切な語句や文を用いて即興で答えつつ、相手に問い返すなどのやり取りができる。	限られた質問にしか答えることができない。また、質問に答えても、相手に問い返すことができない。
3	内容	社会的な話題や地域についての発表とその内容に対する質問に応じて		
	程度	・６文以上で（発表） ・６往復以上で（やり取り） ・適切な音量で※	・５、6文程度で（発表） ・５、６往復程度で（やり取り） ・適切な音量で※	・３、４文程度で（発表） ・３、４往復程度で（やり取り）
	対応	適切な語句や文を用いて即興で答えつつ、相手の気持ちや考えを確かめるために質問をするなどを繰り返しながらやり取りを継続することができる。	適切な語句や文を用いて即興で答えつつ、相手の気持ちを確かめるために質問をするなどしながらやり取りができる。	限られた質問にしか答えることができない。また問い返すことができても、相手の気持ちを確かめるために質問をすることができない。

※グループにおけるやり取りの場合には、他のメンバーに聞こえる音量も基準とする。

(2) 成果（主なもの）

〈機会〉

・生徒一人一人が ALT と会話する機会となった。

〈生徒〉

・発音が美しい生徒が多いと感じた。小学校の英語活動や中学校での英語科や英会話科の授業を通して、英語と触れ合う機会が十分に確保されてきたことによる成果と考える。
・ALT からの質問に答えるだけではなく、自分からも ALT に積極的に質問することができた。
・会話の間に相づちをうったり、聞かれた内容を確かめるように繰り返したりして、会話を続けることできた。
・自分が伝えたいことを、自分が知っている英語や身振り手振りで工夫して伝えようとすることができた。
・学習した表現を使って意欲的に話そうとしたり、その生徒なりの表現を即興で言おうとしたりすることができた。
・黒部市についての質問では、１年生から学習してきた黒部市紹介に関わる知識と表現を活かし、自分の意見を伝えることができた。
・より詳しく情報を自分で付け加えて話したり、ALT の言葉に反応したり、言葉で共感したりできていた。
・情報のやりとりだけでなく自分の気持ちを伝えることで、それぞれの生徒らしさも表現することができていた。

〈教員〉

・生徒がつまずきやすい英文法や語彙を把握することができた。
・質問に対する答え方の練習が必要であることが分かった。
・１対１のインタビュー形式で、一斉授業では見えにくい生徒一人一人の実態が分かった。
・今後の指導、授業改善に大いに役に立つものとなった。
・学習内容定着のためには定期的に復習する必要があると感じた。

(3) 課題（主なもの）

・対話中に言葉に詰まった際、考え中であることを伝えられず沈黙してしまう生徒が多かった。
・対話の相手が理解しやすいように心がけて話す態度や技術を身に付けられるような指導の工夫。（アイコンタクト、音量、発音の明瞭さ等、会話における適切な態度等）
・聞き間違いが多くあったことから、聞く力を付けられるよう音声指導を充実させる。
・テスト中、JETとALTは威圧的な態度や話し方にならないように注意を払い、一人一人に向けて安心して話しやすい雰囲気作りを工夫する。